

中心静脈栄養(TPN)キット製剤を詳しく見てみよう！

TPN キット製剤は隔壁を開通するだけで簡単に調製ができ、当院においても中心静脈栄養を行うほとんどの患者様に使用されています。
今回はピーエヌツインを例に、TPN キット製剤の特徴について紹介します。

ピーエヌツインの構造

調製前は中央付近に隔壁がある2室構造です。

上部は薬剤などを混合する部分、下部にルートを接続する部分がありますので、使用時にはバッグを手で押して隔壁を開通します。

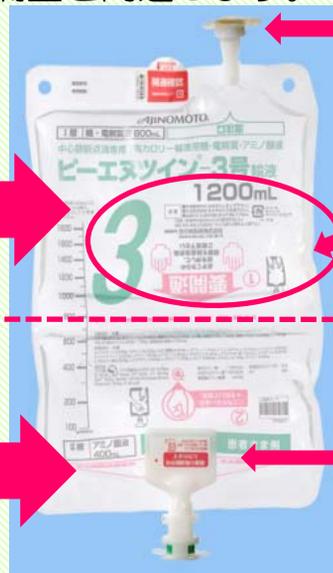
何が入っているの？

上の部屋

ブドウ糖、亜鉛、
電解質 (Na, Cl, K, Mg,
Ca, P)

下の部屋

アミノ酸 (タンパク質を
バラバラにしたもの)



ここから薬剤を混合

このあたりを手で
押さえるだけで
簡単に隔壁の開通が
できる

隔壁

隔壁を開通すると
プラスチックのフタが外れ、
ルートを接続できる。



含まれていないものって何？

脂質 脂肪乳剤の投与が必要です。

ビタミン ビタミン剤の混合が必要です。
特に**ビタミンB1**は静脈栄養においては
必須です。

亜鉛以外の微量元素

メドレニックシリンジの混合により亜鉛、鉄、
銅、ヨウ素、マンガンを追加できます。

なぜ2室構造なの？

糖とアミノ酸が長時間接していると着色してしまう、
メイラード反応を避けるためです。

1号、2号、3号の違いは？

号数が増えるほど
液量・エネルギー量・アミ
ノ酸量が増えますが、
電解質量は同じです。

当院にはTPN キット製剤として、他にアミノトリパ
があります。アミノトリパの糖質にはキシリトール、
フルクトースが含まれています。
当院での採用はありませんが、脂肪乳剤まで含まれる
ものや、ビタミン、微量元素も含まれるキット製
剤も販売されています。

薬剤部 長谷川 裕矢